流拠点を網羅する都市で、130棟の物流施設を運営、都市生活や経済活動を支える重要なインフラとしての、高性能かつ環境にも配慮した物流施設を提供しています。一方持続可能な社会の形成に貢献すべく、ESGポリシーを策定しています。また、GLPは物流、不動産、インストラクチャー、金融をはじめ、関連テクノロジーを対象とする世界的な投資会社です。

GLPアルファリンク流山は、東京都港区・日本GLPの手がける大規模・多機能型・物流プロジェクトで、相模原市で開発中のアルフェリンク相模原と共に、国内最大規模で物流業界トピックとなっています。また流山は環境・高機能・高付加価値に配慮した開発を行い、「ＧＬＰ三郷Ⅲ」は、環境に配慮した設計・災害時の事業継続性確保等が、評価され物流施設日本初のレッドプラチナ認証を取得しました。

DPL・大和ハウス工業の建築事業は、1955年創業以来工業化建築を手がけ物流施設では，累計3,000棟以上を建築してきました。2002年以降は、物流施設をコーディネートするDプロジェクトを開始し、不動産や金融などの各分野のパートナーを組み合わせた、物流・不動産ソリューションを展開、現在では、全国で312カ所、総敷地面積約1,098万㎡の物流施設を手がけています。

4. 流山建築探訪に参加して（おおたかの森地区ミニ紹介）

流山市の新拠点となったおおたかの森地区は、かつては道路や下水道が未整備であって、さらにミニ開発が進み生活排水が流れ込み河川が氾濫を起こすといった都市問題の重層化がありました。そこで持ち上がったのが鉄道整備と宅地開発一体の大都市推進に関する特別措置法に基づくプロジェクトの立ち上げです。平成3年流山市からURに要請があり国土交通省による事業計画認可を経て、平成12年土地区画整理事業がスタートする。計画的かつ一体事業推進はわずか5年でつくばエキスプレスを開業させました。しかし鉄道敷地・駅周辺整備・駅前商業施設の誘致、広域幹線道路の整備・地域に生息する動植物の生育環境整備など多岐にわたる課題に加え地権者約3,500人、800戸以上の既存家屋の一人一人の思いに寄り添い理解を得て令和元年5月に約19年の歳月をかけた事業が完成しました。新しいまちのテーマは、「環境との共生」「安心・安全・子育て支援」と地域名の由来のオオタカが生息する一の谷の森は公園として公共用地になりました。国が絶滅危惧種に指定するセイタカシギなどの水鳥が生息する市野谷調整池は、生物移動させながら保全し、豊かな自然を残しながらのミディゲーション手法による街造りが行われています。また、市民グループ、大学、地権者事業主体に流山市、URが強力して、安心安全まちづくり協議会を設立し、防犯パトロールの実施をしていきました。おおたかの森地区は、10年前の事業開始時は、2,400人だった人口は、現在2万7千人を超えたということです。

帰りは、夕方になってしまいましたが、バスの車窓から夕陽をバックにした富士山も現れて、参加者の皆さんは、疲れはしましたが、充実した一日に満足顔でした。また、このような企画がありましたら参加してみたいと思いながら帰途についたのでした。